

タイちゃんだより



発行者
柏崎総合医療センター
看護部長室

令和2年12月29日
第23号

kashiwazaki-ghmc.jp/nurse/massage/

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、本当に大変な1年でした。そして、この先もまだ状況は続きます。このような状況でも看護や教育（人材育成）を止めることはできません。今年は研修方法を集合研修から分散研修へ変更したり、3室を回避しながら時間短縮など工夫して各研修を行ってきました。研修担当者の方、職場のOJTで指導して下さった皆さん、ご理解とご協力ありがとうございました。そして、新人看護師もこのような状況下でよく頑張りました。今年の経験を活かしながら、来年度の研修計画を検討していきたいと思えます。来年もよろしくお願ひいたします。



専門・認定看護師会 トピックス研修 10/29 化学療法看護に強くなろう！

化学療法における看護の知識や投与時の輸液セットの取り扱い注意点など実践に役立つ学びでした。



災害研修 11/27

今年度2回目の研修は、地震発生時の初期対応について、安全対策や患者搬送時の対応などを具体的に学びました。



COVID-19のパンデミックによる心理社会的影響
ワーク・エンゲイジメントを高めるために
～健康を維持し、主体的に働くために～
ワーク・エンゲイジメントとは、仕事に誇りややりがいを感じている（**熱意**）・仕事に熱心に取り組んでいる（**没頭**）・仕事から活力を得て生き生きとしている（**活力**）の3つがそろった状態のことを言うそうです。健康を維持し生き生きと働くための3つの提案を紹介します。

1. 頑張ったら報われる職場

心理的尊重で、感謝の気持ちを伝えたり、業務の大切さを強調し、大変さをねぎらうなどの働きかけが必要となります。ねぎらいの言葉がけに心掛けましょう！

2. 周囲の支援の活用

コロナ禍のような非常事態だからこそ、「手を借りる」「手分けする」といった周囲の支援の活用を進めましょう。そのためには、普段から気軽に話することができる職場の雰囲気づくりが大切です。

3. 気晴らしとリカバリー

ストレスへの対処には、問題焦点型の対処（問題の直接的な解決に向けた努力）と情動焦点型対処（不快な感情を和らげる努力：気晴らしなど）の2種類があり、慢性的なストレス状況では、この2つを上手に組み合わせることが大切です。ストレスフルな状況からの疲労回復も大切です。仕事と適度に距離を置き、仕事のことを忘れる機会を持つことでリフレッシュすることも大事です。

島津明人：COVID-19 と心理社会的要因：バーンアウトを防ぎワー

マネジメント研修 12/9 「人材育成の基礎知識」

今回で3回目、最後の研修でした。自部署で求められている看護師を育成するために、今自分の立場でできることをグループで考えました。



補助者研修 「褥瘡対策」 11/9・16

褥瘡予防の基本として、背抜きの方法やポジショニングの方法についてデモンストレーションで実際に学びました。

スライディンググロブを使用して背抜きを実演！このひと手間が患者さんの安楽、褥瘡予防につながります。



病院のホームページがリニューアルしてとても見やすくなりました。カラーもクリームソレッドで統一し素敵になったので見てください。来年も看護部のアピールに力を入れていきたいと思ひます。

